

## Q5 結露によりどんな被害が発生？

家庭内ではクロス類、木部、壁などにカビの発生が見られる。また、そのカビを食べるダニなど不快害虫も発生する。また、金属であれば水分の付着により錆が生じる。

チェック！・・・カビは適當な水分（湿り気）がなければ生息できません。

## Q6 室内で結露を発生させないためには・・・

1. 部屋と部屋との温度差※1を作らない。
2. 湿り気の発生を抑える。（参照Q4）
3. 湿り気（水分）を取り除く。（除湿機の使用、狭い場所では乾燥剤）
4. 窓を開ける、換気扇を使用する、など乾燥した空気※2を室内に入れる。

※1 温度を上昇させる（ポイント①）ことも理論的に正しいのですが、家屋の場合ではむしろ家全体の温度差を少なくする方が望ましい  
※2 冬の外気温は低く、また水蒸気量も少ないため

 注意 ピアノのある部屋での石油ストーブ、ガスストーブの使用は避けましょう。

## Q7 仕切りのある場所での湿気&結露対策は？

室内では、温度差、水蒸気量の差により空気は絶えず移動しています。仕切られた構造の場所でもすきまがあれば水蒸気（湿り気）は入りこみます。

しかし、室内と比べると空気がこもりやすく（入りにくく出にくい）、このため全般に温度の低い状態にあります。また、構造上、所々に移動空気がほとんど通過する場所もあります。このように、仕切りのある場所では温度が低く湿度が高い傾向にあります。従いまして、押入れ、タンス、下駄箱、またはピアノの内部などには乾燥剤※3の使用が効果的です。因みに押入れの通常温度は室内温度より約1℃ほど低くなります。密閉性の高いピアノの機種も似た状況にあるものと考えられます。また、設置する場所が湿度の高い部屋であれば結露にも注意が必要となります。

（特に金属部品は、布や木部より早く低温になりやすい）

※3 乾燥剤は種類により吸湿力、吸湿特性に大きな違いがあります。

## Q8 エアコンで結露対策は万全？

エアコンの使用は結露防止にとって有効です。全室を、24時間中継続的に使用できれば結露の発生は考えにくいところです。しかし、エアコンを使用しない部屋が一部あるとか、24時間稼動させない場合はその限りではありません。エアコンを止めた約6時間後には、部屋の湿度は使用しない元の状態に戻ります。

## 冬季の結露対策を一言でいえば・・・

簡潔にまとめると、余分な水分をとる、水分を出さない、温度変化を抑える  
この3つがポイントとなります。

### 【Q4補足データ】

#### 生活上発生する水蒸気量の比較（概算値）

項目	1時間あたりの換算値 (g)
都市ガスによるガスストーブ	600 g
プロパンガスによるガスストーブ	900 g
石油ストーブ	400 g
人体（汗、呼吸による）	100～300 g